

授業

ローズハルマンでは、英語の科目を2科目とアカデミックな科目を2科目履修した。英語の科目は Speaking&Listening と Reading&Writing である。2つとも英語を第2言語としている人たちに対して提供している科目である。(難しくはないが課題は少なくはない。計画が必要。あと、課題や講義で英語を聞いたり読んだり書いたりする時間は多いが話す機会は少ない。そのため、この英語の授業を話す機会として活用している。予習課題を忘れるとディスカッションについていけないので、計画を大切にしたい。)専門科目の2科目は Bio Signal Processing と Brain Computer Interface です。教授の話すスピードがネイティブでも早くてたまにききとれないほどのスピードなので、はじめの1-2週間はよくわからなかったので、授業前に先生に資料をいただき、予習してから授業に臨んでいた。しかし、その授業は週に4回あるので、他の科目もあるため、ずっとつづけるわけにはいかず、今は、予習にはあまり時間を費やさず、授業で分からなかったところをメモし、終わってから授業の内容をまとめ、わからないところをまとめたら教授や友達に聞くようにしている。改善点としては、毎週水曜に出される Lab の課題を引き延ばさずに週末までに終わらせることである。また、水曜の Lab の前に事前に予習をしておくことでより自分の発言に自信が持て、ディスカッションに参加しやすいためその予習に取り組もうと思う。また、教授に質問しに行くことに関してためらいがあるが聞くことで一人でするより理解もでき、効率的なのでオフィスアワーはさらに活用しようと思う。

発見

アメリカに来てから多くの文化の違いなどの発見が見受けられる。1つは、知らない人にも目が合ったら笑顔で返すことだ。理由は、笑顔で返さないと不審に思われるからだそうだ。日本で同じことをやったら逆に不審がられるとアメリカ人の友達に言ったらかなり驚かれた。授業に関する発見としては、1週間に同じ科目が3~6時間あることだ。KITでは、同じ科目は週に多くても2~3時間だったため学校が始まればばかりは戸惑った。しかし、前回の授業でやったことを忘れることなく授業に取り組めるため私はこのシステムのほうが自分に合っていると感じた。最後に、アジア人の少なさである。インディアナ州は、カリフォルニアやニューヨークと比べても国際的であるとはいえない。さらに、RHIT が位置するテレホートは特に白人がかなりの割合を占めている。毎週教会に言っているが、アジア人は自分しかいないほどの割合である。英語を学ぶには適した場所であるが、その反面マイノリティである自分をどう表現して人種と言葉の壁を乗り越え受け入れてもらうかを考える必要もある。

夏休み

夏休みはカリフォルニアに一人旅をして、その後はロチェスターに滞在した。この夏休みに RIT やアメリカにある企業で様々な研究を見せてもらった。中でも、Human Computer Interaction(HCI)という分野に興味を持った。RIT で見せてもらった研究はロボットと共に働く人がどのようなストレスを受けるかについてであった。今の時代、誰もがインターネットにつながれるようになり、次から次へと新しいサービスやロボットが発明されている。つまり、今後人とコンピュータが共存して生活していくと考えられる。そのときに、人がコンピュータをよりよく扱うためにはどのようなデザイン・工夫をするかを考える必要がある。そのため、RHIT でその分

野を研究している教授の授業を受講している。自分にとって新しい分野であるため知らないことがたくさんあるため理解するのに時間がかかるが、この分野についてもっと知りたいと思う。

おわりに

早一か月が過ぎたことに驚きを感じている。隙間時間を見つけては課題や授業の復習に取り組んでいる。こちらの学生の発信力や計画力など見習いつつ、勉強やクラブ活動を通じた交流に積極的に取り組みたい。